

半促成長期どりアスパラガスの定植時期と立茎開始時期が2年目の収量に及ぼす影響

安部貞昭・甲斐寿美徳¹⁾・佐藤 如
(大分県農業技術センター・²⁾大分県農政部)

Sadaaki ABE, Suminori KAI and Hitoshi SATO : Effects of Transplanting Time and Training Time on Second Year Yield of Year-round Asparagus

アスパラガスの半促成長期どり栽培は、ビニルハウスの導入により茎枯病が回避でき、株養成と収穫を並行して行う栽培法により収量が大幅に向上したので、安定した収益が得られる軽量野菜として有望視されている。また、定植後5～6年間は改植せずに収穫ができるため省力的である。しかし、定植から収穫が始まるまでの期間が約1年間と長いために、新規栽培者が取り組む上での課題のひとつになっている。そこで、少しでも早い時期からより多くの収量を得るための栽培法を確立するために、定植時期および立茎開始時期が2年目の収量に及ぼす影響について検討したので、その結果の概要を報告する。

1. 材料および方法

品種に‘ウェルカム’を供試した。定植時期と立茎開始時期の組み合わせとして、1996年5月30日に定植したものは立茎開始時期を収穫開始後30日、40日、50日の3回、6月27日定植では立茎開始時期を無収穫立茎、20日、40日の3回、7月29日定植では立茎開始時期を無収穫立茎、15日、30日の3回、全9処理、1区10株反復なしで検討した。

試験は大分農技セ畑地利用部の場内ビニルハウス(間口6.6m×44m、土壌:腐植質黒ボク土)で行った。播種は1996年に各定植日の3カ月前に行い、畦幅130cm、株間35cm、1条植え(2,198株/10a)で定植した。1年目の収穫は全く行わず、立茎による株養成のみとした。2年目は1997年3月3日に保温開始し、直径8～12mmの若茎を株当たり3.5～4.1本立茎させ、草丈140～180cmで摘心した。施肥量は基肥、春芽前の追肥(3月立茎開始時)ともに緩効性被覆肥料を年1回10a当たり320kg(N45, P₂O₅39, K₂O45)で施用した。灌水方法は灌水用チューブを用いて、畦表面が常に軽く湿っている状態で管理した。

2. 結果および考察

1年目の根株養成量は定植時期が早いほど重くなり、5月下旬定植では1,458gであった。根の糖度は定植時期による大きな差は見られなかった(第1表)。

2年目の月別収量は、定植が早い区ほど春芽(3～5月)の収量が多かった。6月以降の夏秋芽の収量は定植時期による一定の傾向は見られなかったが、立茎開始時期が早いほど収量が多かった(第2表)。

試験区の水準を質的データ、2年目の年間収量を外的基準とした数量化I類で解析した結果、立茎開始時期の方が定植時期より偏相関係数が高くレンジ(収量の変動

幅)が大きいので、2年目の年間収量に及ぼす影響が大きいと判断した(第3表)。これは、2年目の年間収量としては春芽より夏秋芽の占める比率が高く、春芽は前年の貯蔵養分で萌芽するので株養成量の影響が大きい、夏秋芽は当年の立茎による養分で萌芽するために、立茎開始が早いほど多取になったと考えられた。また、2年目の収穫終了時の地上部および地下部の生育状況は、定植時期が早いほど地上部、地下部ともに生育量が多かった。

以上の結果より、‘ウェルカム’を用いたアスパラガスの半促成長期どり栽培においては、定植時期が5月下旬～7月下旬では早く定植した方が2年目の収量が多く、立茎開始も早い方が年間収量が多くなること、2年目の年間収量を多くするためには定植時期を早くすることも大事であるが、立茎開始時期を早めることの方がより収量への影響が大きいことが明らかになった。

第1表 定植時期が1年目の生育に及ぼす影響

定植日	10月16日			12月9日		
	生体重		根の	生体重		根の
	茎葉	根	糖度	茎葉	根	糖度
	(g/株)	(g/株)	(%)	(g/株)	(g/株)	(%)
5月30日	2,136	1,113	5.7	898	1,458	12.6
6月27日	800	453	5.1	412	572	12.1
7月29日	97	73	4.8	180	213	12.9

第2表 定植時期が2年目の収量に及ぼす影響 (kg/10a)

定植日	立茎開始日	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
5月	30日	210	84	75	176	271	303	247	69	1,434
	40日	237	74	45	196	370	364	236	69	1,594
	50日	245	51	2	28	252	319	212	57	1,165
6月	無収穫立茎	117	57	205	364	555	371	197	36	1,902
	20日	121	22	76	254	383	389	211	38	1,493
	40日	162	21	0	57	264	500	241	45	1,291
7月	無収穫立茎	10	83	191	354	448	368	195	34	1,682
	15日	13	21	118	236	402	458	203	39	1,489
	30日	13	0	18	85	237	370	183	38	945

注) 立茎開始日は収穫始めからの日数、無収穫立茎は萌芽始めから立茎させた

第3表 2年目の収量の数量化I類による解析

アイテム	カテゴリー	件数	係数	レンジ	偏相関係数
定植時期	5月	3	264	500	0.9996
	6月	3	-28		
	7月	3	-234		
立茎開始時期	0日	2	480	1023	0.9999
	10日	1	281		
	20日	1	77		
	30日	2	-268		
	40日	2	-120		
	50日	1	-543		

定数項 1444, R=0.999